



思いやりについて

リュウ ギョクキ
刘 玉琦

「凡事都要换位思考」という言葉は 私が小さい頃からよく耳にしてきたものである。相手の立場に立って物事を考えることは、人間関係を築くうえで非常に大切だと思う。日本語にはそれに近い意味を持つ「思いやり」という言葉があり、それは単なる優しさではなく、相手の気持ちを想像し、それを行動に移すことまで含んでいると感じる。

私が日本に来て働き始めたばかりの頃、今でも忘れられない出来事がある。仕事に慣れていなかった私は、作業のスピードが遅くミスが多かった。周りの人が素早く正確に仕事をこなしているのを見ると、自分だけが遅れているように感じとても焦っていた。その日もラインの流れについていけず、周囲に迷惑をかけてしまい「どうして自分はこんなにできないのだろう」と何度も自分を責めていた。

そのとき隣で作業していた先輩が、何も言わずに自然に私の仕事を少し手伝ってくれた。その様子はとてもさりげなく、まるで私の気持ちを理解しているかのような感じだった。そして休憩の際、「最初はみんなそうだよ。ゆっくりでいいから、少しずつ慣れていこうね」と優しく声をかけてくれた。その言葉には責める気持ちは一切なく、安心させようとする思いが込められていた。その一言で、張りつめていた気持ちが和らぎ、「もう少し頑張ってみよう」と思うことができた。

今思えばその先輩はただ手伝ってくれただけ

でなく、私の不安や焦り、そして異国で働くことへのプレッシャーまで理解しようとしてくれていたのだと思う。もしあのとき厳しく注意されるだけだったなら、私はさらに自信を失い、仕事に対して消極的になっていたかもしれない。この経験から「思いやり」とは相手の気持ちを想像し、その人が少しでも安心できるように行動することだと気づいた。

それ以来、私は周囲の人の行動にも目を向けるようになった。忙しいときでも「大丈夫？」と声をかけてくれる人や困っている人にすぐ気づいて手を差し伸べることを。そのような小さな行動が、職場の雰囲気を明るくし、人間関係を円滑にしているのだと実感している。

一方で、私たちは日常生活の中で自分のことで精一杯になり、相手を思いやる余裕を失ってしまうこともある。忙しいときに話しかけられて冷たい態度をとってしまったたり、疲れているときに相手のミスに厳しくなってしまうこともある。しかしそのとき相手がどのように感じるかを少し考えるだけで、より優しい対応ができたのではないかと、後から反省することが多い。

思いやりとは特別なものではなく、日常の中の小さな気遣いの積み重ねである。一言の声かけや手助けが人の心を温かくする。そしてその思いやは、巡り巡って自分にも返ってくる。私も周りの人を思いやり、これからも支えとなれる人になりたい。

受賞の喜び



リュウ ギョクキ

国 籍 中国
職 種 水産練り製品製造
実 習 実 施 者 株式会社紀文食品
監 理 団 体 すずらん協同組合

このたび、「第34回日本語作文コンクール」において、最優秀賞という素晴らしい賞をいただき、大変うれしく思っています。受賞の知らせを聞いたときは、本当に自分が最優秀賞をいただいたのかと信じられないほど驚きました。同時に、これまで応援してくださった方々への感謝の気持ちでいっぱいになりました。

私は現在、株式会社紀文食品横浜工場で働いています。今回、私が「思いやり」をテーマに作文を書いたのは、工場で働く中で、周りの方々からたくさんの思いやりをいただいた経験があったからです。特に、仕事に慣れず不安だった私に、優しく声をかけ、さりげなく助けてくださった先輩のことは、今でも心に残っています。その経験から、思いやりとは、相手の気持ちを想像し、その人のために行動することだと学びました。

今回の受賞を通して、私が感じた「思いやり」という気持ちを多くの方に伝えることができたことを、とてもうれしく思います。また、作文を書くことで、自分が日本で経験してきたことや、周りの方々からいただいた温かい気持ちを改めて振り返ることができました。

この賞を励みに、これからも周りの人への感謝を忘れず、相手の気持ちを考えて行動できる人になりたいと思います。そして、私がいただいた思いやりを、今度は誰かに届けられるよう、これからも成長していきたいです。

指導員のことば

日本語作文コンクールでの最優秀賞受賞、本当におめでとうございます。

毎日仕事で疲れているはずなのに、続けてきた「日本語勉強ノート」の交換。慣れない言葉で一生懸命にその日の出来事や気持ちを綴るあなたの姿を、私は指導員とともに一番近くで見してきました。

ノートを通じて少しずつ語彙が増え、表現が豊かになっていく過程は、私にとっても大きな喜びでした。今回の受賞は、あなたが一日も休まず積み重ねてきた努力が最高の形で実を結んだ結果です。

あなたの素直な思いが詰まった作文は、多くの人の心を動かしました。この自信を胸に、これからも一緒に頑張りましょう。心から誇りに思います。

株式会社紀文食品 横浜工場 工場長 廣幡 昇太